

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

JR茨木駅南地区
(地方都市リノベーション事業)

平成28年6月

大阪府茨木市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	交通利便性の満足度	%	10.8	13.1	9.7	確定 ●	×	あり	—	H 年 月	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	交通利便性の満足度は従前値10.8%に対して9.7%と下回ったが、この満足度は茨木市全域での交通利便性を問うものであったため、目標値未達成には対象地区外の交通に関する取り組みの状況が大きく影響していると考えられる。 ※地区内についての交通ネットワークの整備に関する満足度等は「満足」が「不満」を大きく上回っていることから、対象地区における利便性は向上していると考えられる。
指標2	防災機能の向上	m ² /人	0.00	2.00	2.08	確定 ●	○	あり	—	H 年 月	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	計画区域内に防災公園である岩倉公園を整備したことで、避難圏域(防災公園から半径500m圏)内の一人あたり有効避難面積が目標値以上確保され、約53.8ha、7,199人の避難困難区域が解消された。また、避難路となる防災公園に隣接した道路についても、道路整備及び改良を行い、地域の防災機能が向上した。
指標3	産官学民交流センターの利用者数	人	0	3000	6,538	確定 ●	○	あり	36,594	H28年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	イベントホール等における産官学民が連携した活動・イベント等の実施や、図書館における近隣住民等の日常的利用により、利用者数が目標値を大きく上回り、地域の交流拠点としての機能を担っている。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	対象地区における都市再生整備計画事業の満足度	%	—	/	50.1	確定 ●	/	/	—	H 年 月	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	今回のJR茨木駅南地区における整備事業により、各道路の整備やバリアフリー化の促進、交通安全性の向上を図り、また、産官学民交流センターや防災公園の整備を実施したことで、50%以上の満足度が得られた。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	防災機能の向上	大学と連携したイベント(防災運動会)の実施	防災意識を高めるとともに、市、大学、企業、市民活動団体等が参加する事で今後の連携の基礎が築けた。	防災知識の向上・持続を図るため、今後も防災イベントを実施する。
	バリアフリー化のさらなる推進	障害者団体等の関係者と継続協議	今後の道路整備におけるバリアフリー化について、参考となる情報が得られた。	バリアフリー化の更なる推進を目指し、今後も継続して協議を行う。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	交通ルールの周知	警察・大学と連携した街頭啓発活動(計12回)	学生の交通マナーの向上が図られた。	今後も交通安全教室や街頭啓発などの安全教育を推進する。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
—	—	—	—